

保護者・生徒用

愛ことば

～安倉中愛 友よ～

宝塚市立安倉中学校
校長だより
2024(令和6)年
12月6日(金)
第19号

選挙演説立派でした。次号で紹介予定。

ねんてん先生がやってくる～全校集会で伝えたかったこと～

突然ですが「ねんてん先生」って知っていますか。本名は「坪内稔典^{つばうちとしのり}」とおっしゃいます。でも、一般的に名前を音読みして「ねんてん先生」として親しまれており、とてもよく知られている先生です。先生と言っても現役の先生ではなく、かつて中学校の校長先生をされていた経験があり、今は佛教大学名誉教授、京都教育大学名誉教授という先生です。と聞けば中学生の皆さんにとっては近寄りたいたい感じがするかもしれませんが、お会いしてお話をお聞きすると、とても気さくで誰にでも優しいお人柄で一度お話しすると、その魅力に引き込まれてしまうすごい先生です。(年下の私が言うのも失礼な話ですが…)

そんな「ねんてん先生」が今度安倉中学校に来てくださり3年生の俳句大会に力を貸していただけることになりました。もう少しねんてん先生の紹介をさせていただきます。ねんてん先生は、正岡子規や松尾芭蕉などの俳句の研究でとても有名で、著作も多く「坪内稔典の俳句の授業」「俳句のユーモア」「カバに会うー日本全国河馬めぐり」「カバヤ文庫の時代」「子規とその時代」「芭蕉とその時代」などがあります。現在、毎日新聞朝刊に『季語刻々』という俳句コラムを14年間に渡り毎日連載されており、私はその記事が読みたくて毎日新聞を購読しているほどです。また、宝塚市で毎年行われている『ことばの祭典』での俳句バトルでの講師役を務められています。市立伊丹ミュージアム名誉館長や平成12年京都府文化賞功労賞・平成16年京都市文化功労者・令和2年兵庫県文化賞などご紹介することは数えあげればキリがないほどです。

それでは、ねんてん先生の有名な俳句をいくつか紹介させていただきます。

「三月の ^{あまなっとう}甘納豆の うふふふふ」

「十二月 どうするどうする ^{あまなっとう}甘納豆」

「たんぽぽの ぽぽのあたりが 火事ですよ」

「しっぽまで 赤くて人参^{にんじん} 身がもたん」

「がんばるわ なんて言うなよ 草の花」

「春の風 ルンルンけんけん あんぽんたん」

「桜散る あなたも河馬^{かば}に なりなさい」

「水中の 河馬が燃えます 牡丹雪」
ぼたんゆき

「春の暮 御用御用と サロンパス」
くれ ごよう

「ボンカレー 句う3月 逆上がり」
にお

「花冷えの イカリソースに 恋慕せよ」
れんぼ

どれもねんてん先生独特のセンスで一度聞いたら頭から離れないようなものばかりです。甘納豆や人参などは、「言葉を身体化する」という表現でご自身で「ハチャメチャ俳句」とも評されています。

たった17文字の俳句の面白さは、全てを表現しきれないところにあります。だから、作者の思いと受け止める読者の思いが違っていてもそれで良くて、そこが面白いということです。

ねんてん先生は「受け止めるのは読者なので作者は（解釈を）読者に委ねる」とおっしゃっています。また、「読者の受け止め方から作者が「へえ～」と思うような素敵な受け止め方をすれば、作者はそれに乗かって新しい受け止め方をするのも五・七・五の言葉の醍醐味」と言われています。「言葉の現代アート」なのです。だから、「俳句は、自由に勝手に読んで楽しむ。そしたら世界がもっと面白く楽しくなる。」のです。

また、ねんてん先生は「大人や老人にしか通じないのはダメ」「リズムやイメージで何となくわかる」とか「小さいこども、10歳くらいの子は言葉を覚えようとしていて言葉が生き生きしている」として若い皆さんが普通に使う今どきの独特の言葉などもとても面白いと肯定的に捉えられています。

そして、実際にはありえないことも言葉の世界ではありえることとして、河馬の俳句もありなのです。（ちなみにねんてん先生は、大の河馬好きで、日本全国の動物園の河馬に会ってきたそうです。私はYouTubeでのねんてん先生の自宅の机の上の河馬を真似て校長室にも河馬を置いています。）

そして、「自分にもわからない句が大切」ともおっしゃっています。これで、俳句がとっつきにくいと思っていた人も「なんか1句できそうだぞ」という気分になったでしょうか。この安倉中でも、ねんてん先生の言葉遊びの感覚をどんどん広げていきながら言葉を大切に、人を大切にして、安倉中学校での生活をもっともっと面白く楽しいものにしていければと考えています。

12月13日(金)3・4校時ねんてん先生をお招きして3年生俳句大会を行います。乞うご期待。

これを機に全校生の皆さんにも俳句作りで言葉を紡いで遊んでもらう予定です。終業式当日。どんなことになるのかわかりませんがまずはここからやってみましょう。乞うご期待。

